

令和7年8月1日

令和6年度 特別の教育課程の実施状況等について

栃木県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
宇都宮市立清原北小学校	宇都宮市教育委員会	公立
宇都宮市立城山西小学校		

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
宇都宮市立 清原北小学校	http://www.ueis.ed.jp/school/kiyohara-n/%E5%B0%8F%E8%A6%8F%E6%A8%A1%E7%89%B9%E8%AA%8D%E6%A0%A1/page_20220425225326
宇都宮市立 城山西小学校	http://www.ueis.ed.jp/school/siroyama-w/cabinets/cabinet_files/index/65/12a55926b065a40671b456ffae2519b2?frame_id=51

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
宇都宮市立 清原北小学校	https://www.ueis.ed.jp/school/kiyohara-n/cabinets/cabinet_files/index/89/9aa9cc4b08505faf611c1da184eb4c7d?frame_id=15	http://www.ueis.ed.jp/school/kiyohara-n/%E5%B0%8F%E8%A6%8F%E6%A8%A1%E7%89%B9%E8%AA%8D%E6%A0%A1/page_20220425225326
宇都宮市立 城山西小学校	https://www.ueis.ed.jp/school/siroyama-w/cabinets/cabinet_files/index/54/f3387dd154165c50378507efa983cebf?frame_id=50	http://www.ueis.ed.jp/school/siroyama-w/cabinets/cabinet_files/index/65/10304c50c1c2db29ae3bccaeb2966fc8?frame_id=51

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

○計画通り実施できている

・一部、計画通り実施できていない

・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- ・実施していない

<特記事項>

本特例を実施している2校とも、活力ある学校づくりへの参画や、地域の教育力を生かした学校教育の充実を図るため、地域と学校による協議会を実施しており、その会議の中で、教育目標及び学校経営の方針、教育課程の編成方針などについて意見交換の場を設けている。

また、特別の教育課程の編成による特色ある教育活動の様子や、活動への協力の呼びかけなどを、学校ホームページ等を通じて発信することにより、保護者及び地域住民、その他関係者に対する積極的な情報提供を行っている。

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本特例は、国際化が進展する社会の中で様々な人々と協力し共に生きることができる児童を育成するため、「ことばの時間」と「英会話の時間」からなる「会話科」を実施するものである。

本特例を実施している清原北小学校及び城山西小学校においては、「会話科」において児童のコミュニケーション力を育てる授業を実践するとともに、授業で培った表現力やコミュニケーション力を他教科や日常生活に生かせるようカリキュラム・マネジメントを行うことにより、児童のコミュニケーションに対する意欲が高まり、自分の気持ちや考えを積極的に伝え合う姿が見られるなどの成果が表れている。

一方で、2校とも1学年につき20名程度を定員とする小規模特認校であるため、個々の児童の資質・能力の伸長に着目しながら、少人数や地域の特性を生かした教育活動の実施状況等について分析・検証して、教育課程の編成に生かしていく必要があることが指摘されている。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本特例を実施している清原北小学校及び城山西小学校においては、「確かな学力」の育成を掲げ、合言葉やキーワードを示すことにより、基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図る学習指導の充実に努めている。2校が、ホームページで公表している市の学習内容

定着度調査の結果資料からは、国語の「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」のいずれの領域においても、市の平均正答率を大きく上回るなど、「会話科」の設置による特色ある教育活動の成果が表れている。

一方、県が実施した学習状況調査における児童質問調査では、「家で、学校や塾で決められた宿題の他に自分で考えた勉強としている。」、「難しい問題に出会うと、よりやる気が出る。」、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」という設問については、県の肯定的回答割合を下回る学年も見られることから、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の取組を活性化させる必要性が指摘されている。

また、学校評価についてのアンケートのうち、「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」という項目について、2校とも、児童と教職員の肯定的回答割合に差が見られることから、話し手や書き手の意図を捉える力や、根拠を挙げて自分の考えを話す力を育みながら、外国語が「分かる」「できる」喜びを味わうことを自信につなげていく指導の充実が求められている。

5. 課題の改善のための取組の方向性

3に示すような課題を踏まえ、各校においては、1人1台端末などのICT機器の効果的な活用により、話し手や聞き手との意見と比べるなどして考えをまとめたり、共通点や相違点を整理しまとめることなどについて指導したりすることにより、改善を図る必要があると考える。

今後も、多くの友達との関わり合いが展開できるような学習活動を工夫するとともに、担当指導主事が積極的に学校訪問を行い、研修の充実を図ること等により、更なる授業の質の向上に努めていく。